



生命を守る人の環境づくり

シップヘルスケアホールディングス株式会社 [東証プライム：3360]

サステナビリティレポート

2026

「いのち 生命を守る、自然と環境を守る。」

シップヘルスケアグループは、
「生命を守る人の環境づくり」に、
これからも邁進していきます。

私たちが大切にしているグループ理念は、
Sincere(誠実な心)、Humanity(「情」の心)、Innovation(革新者の気概)、
PartnerSHIP(パートナーシップ精神)の頭文字SHIPを取った「SHIP」理念です。
グループミッションである「生命を守る人の環境づくり」を
グループが“ONE SHIP”となり、海を航海するように邁進してまいります。



シップヘルスケアグループ

売上高：7,181 億円（2026 年 3 月期 連結）従業員数：16,080 名（2026 年 3 月末）

- シップヘルスケアホールディングス
- グリーンホスピタルサプライ
- シップヘルスケアリサーチ&コンサルティング
- セイコーメディカル
- シップヘルスケアエステート
- グリーンライフ
- 大阪先端画像センター
- グリーンエンジニアリング

- グリーンアニマル
(千里桃山台動物病院)
- シップヘルスケアフード
- 北大阪地所
- サンライフ
- セントラルユニ
- エフエスユニ
- エフエスユニマネジメント

- シップヘルスケアファーマシー
- アイネット・システムズ
- ハートライフ
- クオンシステム
- 山田医療照明
- ライトテック
- 酒井医療
- SMC

- GREEN HOSPITAL MYANMAR
- 大阪重粒子線施設管理
- 西野医科器械
- 小西医療器
- メディカルロジスティクス
- SHIP AICHI MEDICAL SERVICE
- 日本パナユーズ
- 昭島国際法務 PFI

- ユーロメディテック
- I&C
- 日本システム家具
- ジョイアップ
- 日本ネットワークサービス
- 中央
- キングラン
- クリーンベア九州

- キングラン・ハウネスト
- キングランリニューアル
- イーエムエス
- グランディック
- エム・アイ・シー
- テックインターナショナル
- 昭島国際法務マネジメント

経営理念

グループ理念



グループミッション

生命を守る人の環境づくり

基本姿勢

し せい そく だつ
至誠惻怛

「至誠惻怛」とは、幕末に備中松山藩の財政危機を救い、藩政改革を成し遂げた山田方谷が河井継之助に贈った言葉です。「至誠」はまごころ、「惻怛」はいたみ悲しむ心を表し、この心を兼ね備えて生きることが人間としての生きる基本姿勢であり、当社グループの基本姿勢です。

「ONE SHIP」マークについて



追い風を受け前進する帆を表したSのかたちは、
いかなる時でも目標を目指し
航海をつづける「SHIP」理念を表象しています。

「ONE SHIP」は、社会要請という強い風を受け、
ヘルスケアの未来という光を映しながら
社会の荒波を航海する一艘の船を表しており、
シップヘルスケアグループの結束を象徴しています。

目次

- P.02 経営理念
- P.03 私たちのあゆみ
- P.04 事業の全体像
- P.05 社長メッセージ
- P.07 私たちが大切にしていること
- P.08 価値創造図
- P.09 特集 「SHIP」理念に基づく価値創造事例：
 - 01 Well-Beingの推進
 - 02 SHIPグランベース東京
- P.10 03 小田原市立総合医療センター
- 04 大阪重粒子線センター

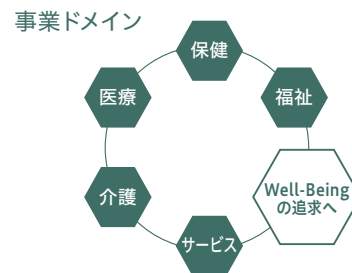
- P.11 重要課題(マテリアリティ)への取り組み
- P.12 シップヘルスケアグループの重要課題(マテリアリティ)
- P.13 地球環境の未来と共に
- P.15 医療の未来と共に
- P.17 地域の未来と共に
- P.18 人材の未来と共に
- P.19 組織の未来と共に
- P.20 役員一覧
- P.21 社外取締役メッセージ
- P.22 会長メッセージ
- P.23 企業情報

編集方針

シップヘルスケアグループは、グループミッション「生命を守る人の環境づくり」を胸に、人々が「より良く生きる(Well-Being)」ことができる持続可能な社会の実現に向けて、あらゆるステークホルダーの皆様との価値共創を大切にしています。本レポートは、サステナビリティへの考え方・取り組みを通じて当社グループの姿勢をより良くご理解いただき、皆様とのコミュニケーションを深めていくことを目指して作成しています。

私たちのあゆみ

医療機関を支えるために
“一步先”を見据えて
挑戦し続けてきました。

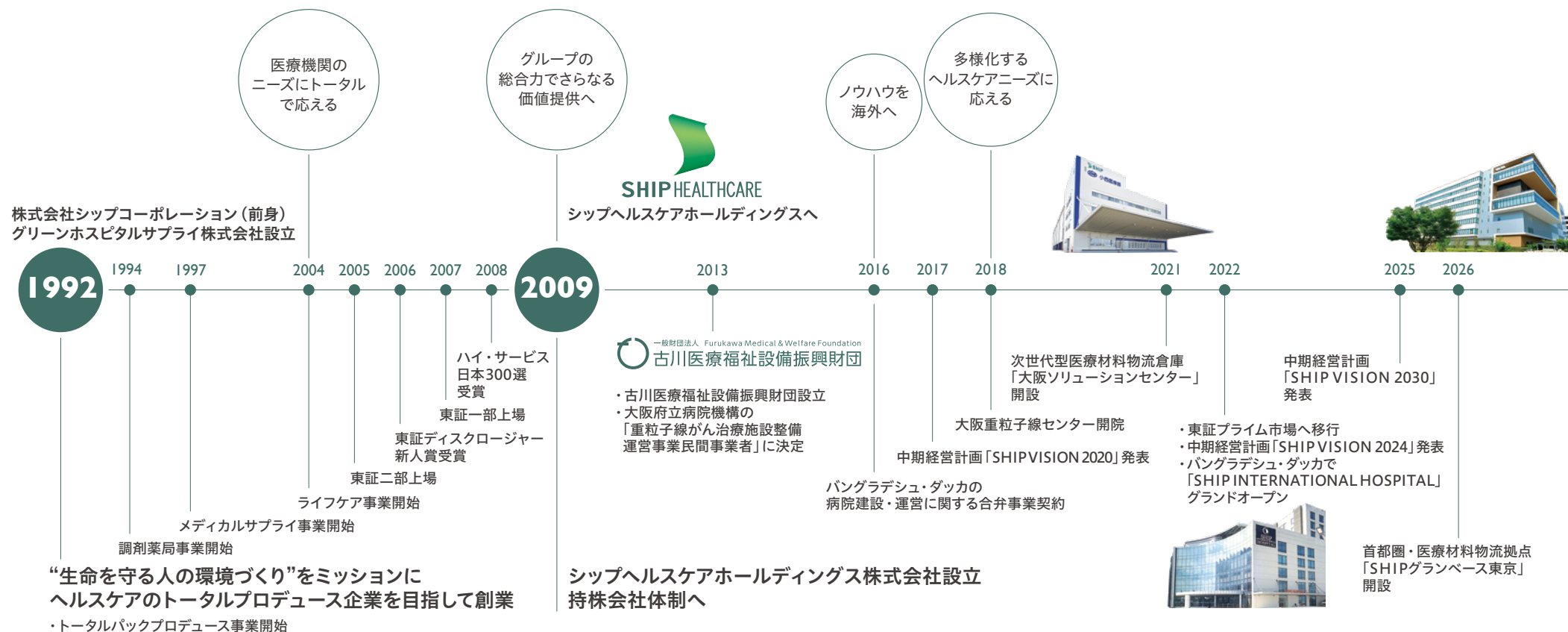


グループ会社
(2026年4月30日現在)

52 社

連結従業員数
(2026年3月31日現在)

16,080 名



事業の全体像

トータルバック プロデュース事業 (TPP)



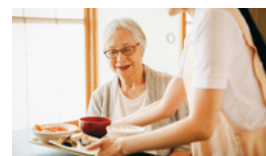
国内外の地域中核病院や大学付属病院の新築・移転・増改築のニーズに対し、総合的なサービスの提供を通じて、地域医療のトータルソリューションを実現します。

ライフケア事業 (LC)



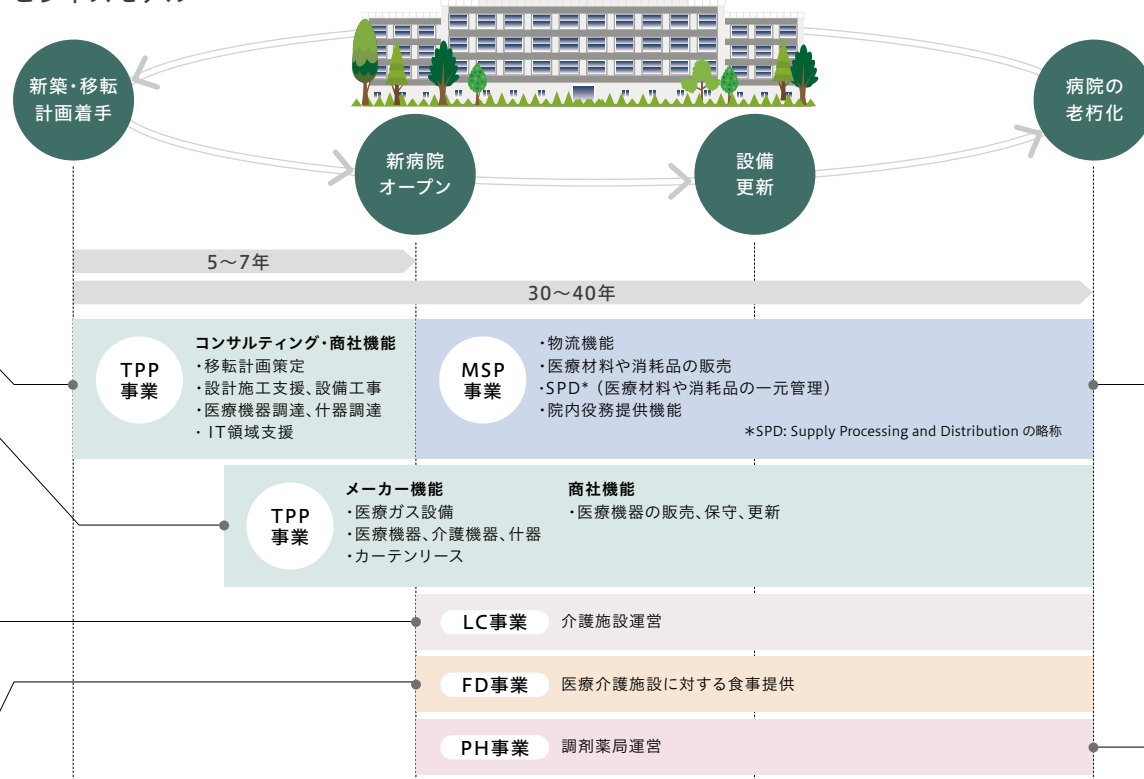
300床以上の大型施設から小規模多機能施設まで、全国約70施設を運営しています。

フード事業 (FD)



医療介護施設などに対する食事提供サービスを行っています。

ビジネスモデル



メディカル サプライ事業 (MSP)



診療のために日々使用される診療材料・消耗品を販売しています。また、SPDシステムによる消耗品の一括管理・調達など、効率的な医療現場づくりに貢献しています。

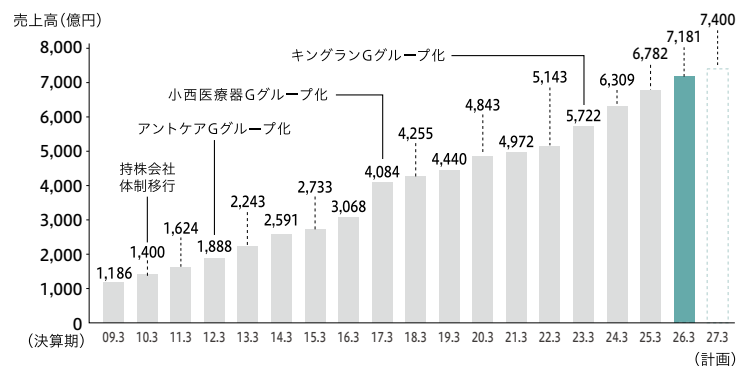
調剤薬局事業 (PH)



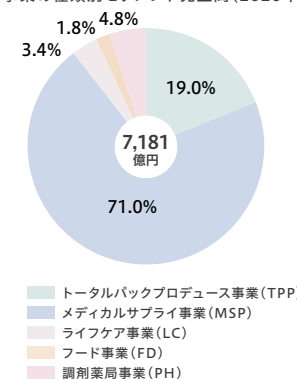
大型病院周辺をはじめ、門前調剤薬局や在宅調剤など日本全国で約130店舗の調剤薬局を展開しています。地域に根差した調剤薬局を目指しています。

成長と収益構造

連結売上高の推移 (2009年3月期～)



事業の種類別セグメント売上高 (2026年3月期)



社長メッセージ

常に理念に立ち返り「生命を守る」ための事業活動に邁進

シップヘルスケアグループの社長に就任し、6年目を迎えました。

古川会長をはじめ、創業者の皆様の思いが込められた「SHIP」という揺るぎないグループ経営理念のもと、事業活動の舵取りを進めてきました。多くの経営課題に直面するたびに、理念に立ち返ることの大切さを感じます。

— 超高齢化社会への突入と当社グループの事業環境

少子高齢化の進展により社会保障費がどんどん膨らむ一方で、労働力人口の大幅な減少で税収が減り、医療や介護に必要な資源の確保が難しくなっています。今後は、医療サービスに必要な人材の確保や、医療体制の維持も困難になります。

今後は「団塊の世代」と言われる方々が後期高齢者となり、より多くの医療サービスが必要になるため、医療サービ

スの需要はしばらく増えますが、その後の人口減少で、市場自体が縮小に向かうものと見ています。

厳しい事業環境の中でも、古川会長の言葉にもありますとおり、当社グループは、「生命を守る」ことから目を背けません。このような時代だからこそ、医療サービスに携わる人々の労働環境の整備に配慮しながら、サービスを提供することが求められています。

— 当社グループが果たすべき役割

当社グループは、病院の建設・移転支援をはじめ、医療機器や診療材料の供給、医療材料物流、介護施設運営、調剤薬局事業など、医療・保健・福祉・介護のさまざまな領域において事業を展開してまいりました。こうした事業活動を通じて培ってきた知見やノウハウ、幅広いネットワークは、当社グループの重要な経営資本であると考えています。

近年は、医療や介護のみならず、地域社会が抱える課題も複雑化・多様化しており、一つの企業や組織だけで解決することが難しい時代となっています。そのような環境の中で、当社グループには、多様なステークホルダーをつなぎ、それぞれの強みを活かしながら課題解決へ導く役割が求められていると認識しています。

当社グループは、それぞれの事業が持つ専門性を活かしながら、グループ全体としての総合力を発揮することで、医療・ヘルスケア分野にとどまらない新たな価値創造に取り組んでまいります。そして、社会や地域が抱える課題の解決に貢献しながら、持続可能な成長を実現していきたいと考えています。

— 解決すべき足元の課題

「生命を守る」ための事業活動であることを踏まえサービスの質と量を、ともに拡大させていくことが、今後の大きな

課題です。

特に医療・介護現場では人材不足が深刻化しており、限られた人員で質の高いサービスを維持していくことが求められています。

近年は、医療サービス業界においても、DX化の波が押し寄せており、こうした流れに対応していくこともまた、「生命を守る」ための事業活動の充実につながると考えています。そのため、今後はIT関連のスキルやノウハウを持った人材の採用を積極化し、既存の人材についても、デジタル人材の育成を加速します。

— 中期経営計画「SHIP VISION 2030」の策定について

2026年3月期より5か年の中期経営計画『SHIP VISION 2030』を策定し、定量目標として「売上高年平均成長率(CAGR)5%」、「営業利益率4%」、「ROE12%」を掲げています。基本方針を「グループ経営資源の最適化によるポートフォリオ経営」とし、長期目標である連結売上高1兆円の実現とその先の業容を支えるグループの基盤について、あらゆる面から最適化を図ります。

これらを基礎に、「新規事業創出」、「再編統合」、「成長領域の拡大」などの施策を重点的に推し進めます。特に新規事業創出に向けては、「生命を守る人の環境づくり」を軸としつつ、前中計で注力してきた「Well-Being」の取り組みをさらに前進させ、「人々がより良く生きる環境づくり」へと、当社グループが提供するソリューションの幅を広げていきます。こうした取り組みを通じて、事業成長と社会課題の解決を両立させ、中長期的な企業価値向上を目指してまいります。

— ビジネスモデルの進化と今後の成長

これまで当社グループでは、トータルパックプロデュース



ス事業での発想力を活かし、その他の事業を拡大させてきました。今後も引き続き、トータルパックプロデュース事業をグループの基幹として捉え、さらなる高収益事業に育てます。

加えて、面展開を進めているメディカルサプライ事業を、グループの基幹であるトータルパックプロデュース事業につないでいくことが、今後の重要な課題です。課題の解決により、メディカルサプライ事業で得られる豊富な情報を起点とした循環モデルを強化します。

また今後は、グループ社員全員が、自分が携わる事業領域のみにこだわらず、グループ全体のポートフォリオを俯瞰し、横連携＆縦連携が行えるような企業風土を醸成していきます。その原動力は「人」です。多様な人材の活躍推進と育成を進め、変化に強い組織を目指します。

「生命」を最優先で捉え、全力で取り組む姿勢はこれからも持つべきであり、時代に応じて社会が求めるサステナビリティ課題に対し、柔軟に対応していくことも重要です。そのバランスを考えて経営をすることは、社長としての重要な使命です。

——「グループ理念」を抛り所にし、当社グループとしての存在感を発揮する

人々がより良く生きることを支える、Well-Beingな社会を実現するためには、医師の方々をはじめとする多くの医療従事者の方々、民間企業、行政など、さまざまなステークホルダーの方々との共創が必要です。今後は、こうした方々を上手に繋ぎあわせる「接着剤」のような役割を果たすべきで、そのためには、私たちのできることを増やし、仲間を増やすことが重要です。私たちは今後も、持ち前の「コンサルティング力」と「プロデュース力」で、経営資本の拡大を図りながら、グループ内シナジーの最大化を目指します。当社グループの3代目社長として、胸を張って次の世代にバトンを渡せるよう努力を重ねます。

当社グループの今後の活躍に、どうぞご期待ください。

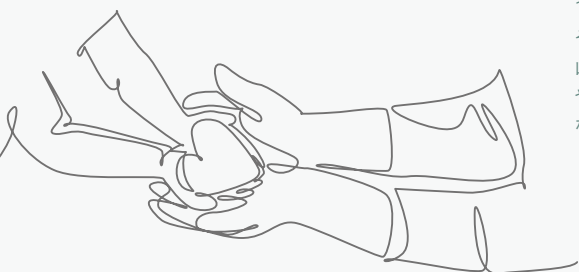
代表取締役社長

大橋 太



Our Values

まごころと いたみ悲しむ心。



1992年、創業にあたり目指した「理念をアイデンティティとする会社」。
その基本姿勢となったのが、幕末、備中松山藩の藩政改革を主導した
山田方谷が説く「至誠惻怛」です。まごころといたみ悲しむ心があれば、
やさしくなれる。苦難に直面する人々の気持ちを汲み、手を携えて新た
な解決策を導く。私たちの成長の源泉となる精神です。

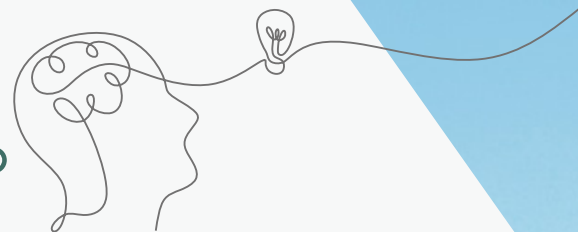
私たちが大切にしていること

「義」も「利」も現場にしか落ちていない——徹底
した「現場第一主義」を貫いてきた私たち。日々新
たな課題が生まれる、妥協の許されない現場だ
からこそ、自ら風を吹かせ、匂をつかむ者だけが
生き残る。そのことを深く心に刻み、自己変革に
挑戦し続けています。

風を吹かせて、 “匂”をつかむ。



NOとは言わず、 まず考える “人間力”。



やらない理由を探すのは簡単。まずは徹底的に考え、本気で取り
組むことからすべての可能性が開けます。NOをYESにすること
を諦めなければ、きっと味方が現れる。皆で達成するための求心
力たる人材へ、時間をかけて育てていきます。

信 尊 理 共 頼 重 念 に し、 ず る。 する。

昨今、当社グループにはますます多様な
ノウハウが求められています。しかし私た
ちは「理念の無い」M&Aは行いません。
パートナーとして協力し合うこと、違いを
尊重し、共鳴しつつ共に伸びていくこと
が、ミッション実現への近道だと信じてい
るからです。

価値創造図

「SHIP」理念を根底に、
すべてのステークホルダーのパートナーとして
社会課題の解決に貢献していきます。

グループミッション

生命を守る人の環境づくり

Well-Being な 社会の創出を目指す

提供価値

地域医療
への貢献

トータルパック
プロデュース事業

地域中核病院をはじめとする
医療機関の整備や地域
包括ケアシステムの推進を
サポートし、地域医療の強
化に貢献しています。

医療現場の
効率化

メディカルサプライ事業

医療従事者の方々が医療に
集中できる環境をつくるた
め、医療現場の効率化を実
現し、持続可能な医療体制
の構築に貢献しています。

質の高い
介護・食事
サービス

ライフケア事業・
フード事業

医療機関の協力のもと、病
院づくりのノウハウを活か
した介護施設を展開。
また、医療機関などへの食事
サービスも展開しています。

地域密着型の
薬局展開

調剤薬局事業

地域に根差した薬局を展開
し、医療機関や他職種と密
に連携することで地域包括
ケアシステムを推進してい
ます。

誰にも
最良の医療を

海外事業

従来の既存5事業で培った
さまざまなノウハウを活かし
国内外でヘルスケアサービ
スを展開。誰もが最良の医
療を受けられるようグループ
の知恵を最大限に活用して
いきます。

地球環境の未来と共に

医療の未来と共に

地域の未来と共に

人材の未来と共に

組織の未来と共に

マテリアリティ
(重要課題)

E

S

G

私たちが今、
取り組んでいること

医療の
役割分担、
地域連携機能
強化

アウトソースの
推進

事業領域

メディカル
サプライ事業

医療材料供給・
物流管理へ展開

調剤薬局
事業

医療機関との
関係・調達力活用

トータルパック
プロデュース事業

ノウハウ
活用

ライフケア
事業

フード
事業

グループ理念
SHIP
基本姿勢
至誠惻怛

「SHIP」理念に基づく価値創造事例

Value creation based on "SHIP" Philosophy

創業時から大切にしている「SHIP」理念は、今なお当社グループの事業活動の中で息づいています。ここでは「SHIP」理念を体現する4つの取り組みについてご紹介します。

case 01 人々がより良く生きる環境をつくる Well-Beingの推進

当社グループは、ミッションである「生命を守る人の環境づくり」のもと、従来の「生命を守る」取り組みに加え、「自然を守る」視点を取り入れたWell-Being推進事業を積極的に展開しています。その一環として、①公園の指定管理業務、②学校・保育施設などの包括管理業務を通じ、地域社会への貢献を進めています。

2022年7月より、吹田市立江坂公園及び江坂図書館、桃山公園の魅力向上事業における指定管理者(Park-PFI事業※)として、地域の賑わい創出に取り組んでまいりました。2023年10月からは、吹田市の小学校・幼稚園・保育所等、合計84施設の施設管理業務などを、今後5年間にわたり受託しました。公共施設の包括管理を通じ、安全・安心な学びと育ちの場づくりに貢献しています。さらに、中の島公園・中の島スポーツグラウンドの指定管理や、2026年7月から開始した京都府立植物園の施設管理・運営業務など、Well-Being事業を新たな地域・領域へ展開しています。

今後も、地域や自然とのつながりを大切にしながら、人々が健康でより良く生きることのできる環境づくりに取り組み、持続可能な地域社会の実現に貢献してまいります。

※ Park-PFI: 2017年の都市公園法の改正で創設された、民間事業者による公共還元型の収益施設の公募設置管理制度のこと。



中の島公園、吹田市立中の島スポーツグラウンド

case 02 医療材料の安定供給を支える 次世代物流プラットフォーム SHIPグランベース東京

医療現場に必要な医療材料を、必要な時に確実に届けることは、安全で質の高い医療を支える重要な社会インフラです。当社グループは、SPD(医療物流管理)サービスを通じて医療機関の業務効率化と安定供給を支援しており、その中核拠点として2026年2月に首都圏物流拠点「SHIPグランベース東京」を開設しました。

本施設は、首都圏に分散していた物流機能を集約し、約60施設・約2万6千床の医療機関への供給を担う次世代型物流拠点です。AI・ロボティクス・RFIDなどの先進技術と自動倉庫システム「RENATUS」を活用し、入荷・保管・出荷までの物流プロセスを高度化することで、物流品質の向上と安定供給を実現しています。また、日本通運との協業によるRFIDトラッキングシステムの導入により、医療材料の位置情報をリアルタイムで把握し、トレーサビリティの強化を推進しています。さらに、BCP対応施設として災害時にも稼働可能な体制を整えるとともに、大阪ソリューションセンターとの連携による供給網の複線化を図り、医療物流のレジリエンス向上にも取り組んでいます。

当社グループは、物流DXの推進を通じて医療材料の安定供給を支え、持続可能な医療提供体制の構築に貢献してまいります。



case 03 地域完結型医療を支える新たな基幹病院 小田原市立総合医療センター

神奈川県小田原市の小田原市立総合医療センターは、2市8町からなる県西地域の基幹病院として、2026年5月に開院しました。再整備では、県立足柄上病院との機能分化と役割分担のもと、周産期医療とがん放射線治療を集約し、三次救急・高度急性期・急性期医療を強化。県西地域で唯一の救命救急センターとして高度医療設備を拡充しました。さらに、免震構造や屋上ヘリポートを備え、「ZEB Ready」認証を取得するなど、災害対応力と環境性能を高めています。

当社グループは、設計・施工・開院準備の段階から移転までの支援業務を受託し、プロジェクトの円滑な推進を支えました。医療機器・什器・備品の整備、医療情報・物流管理システムの整備、外部委託化、運営・移転準備など、多岐にわたる開院業務に、これまで培った知見やノウハウを活用しました。医療機関の新築・移転・増改築を支援する「トータルパックプロデュース事業」の強みを活かすとともに、開院後はグループ会社が患者給食調理業務を担っています。計画から運営までを切れ目なく支える総合力を通じて、今後も医療従事者が力を発揮でき、地域の方々が安心して医療を受けられる環境づくりに貢献していきます。



撮影：株式会社エスエス 走出 直道

case 04 最先端のがん治療施設を支える 大阪重粒子線センター

大阪重粒子線センターは、全国で6番目、民間主導の民設・民営の重粒子線がん治療施設としては国内初の施設として誕生しました。2018年の開院・治療開始以来、国内外の多くの患者様の治療にあたり、2026年3月末までに、前立腺がんの患者様をはじめとして、延べ6,371人と多くの患者様の治療を行ってきた実績があります。「重粒子線」は粒子の質量が大きく、X線や陽子線など他の放射線治療に比べて体内の線量分布に優れています。重粒子線を使ったがん治療は、体へのダメージを最小限に抑えられるほか、照射による痛みも伴わないために入院も不要で、患者様のQOL維持にも優れているとも言われています。

重粒子線治療施設に関し、当社グループでは2013年に大阪府立病院機構の「重粒子線がん治療施設整備運営事業民間事業者」として指名されるなど、これまで重粒子線がん治療施設の開設や運営に関するノウハウを蓄積してきました。大阪重粒子線センターに関しても、その開設から日々の施設運営に至るまで、総合的なサービスを提供してきました。これからも、最先端のがん治療施設の運営支援を通じて、がんと闘う患者様の力になりたいと考えています。



重要課題（マテリアリティ）への取り組み

「生命を守る人の環境づくり」を全うすることで 持続可能な社会の実現を目指します。

サステナビリティの基本的な考え方

シップヘルスケアグループは、「SHIP」理念及びグループミッションを根底にステークホルダーの皆様とのパートナーとして、課題解決に向けた新たな価値を生み出します。

シップヘルスケアグループは、医療・保健・福祉・介護・サービスの分野で、イノベーターとして活躍し、多くの新しい価値を提供してきました。この成長を支えてきたものは、創業以来守り続けている「Your company」としての企業のあり方と、イノベーターとして絶えず「旬」を追い続けてきたことです。

今日、地球規模でのさまざまな社会課題が顕在化する中、当社グループは創業以来のビジネスモデルをさらに強化しながら、ESG・SDGsへの取り組みを積極的に進め、当社グループの持続的成長と社会の持続可能性に貢献してまいります。

シップヘルスケアグループとSDGs

シップヘルスケアグループは「SHIP」理念及び「至誠惻怛」の精神の下、SDGs目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」を基本姿勢とし、生命に関わるヘルスケア業界のリーディングカンパニーとして、目標3「すべての人に健康と福祉を」の目標達成に大きく貢献します。また、シップヘルスケアグループが「生命を守る人の環境づくり」を実践し、さまざまな展開する取り組みの中でその他のSDGsの目標にも貢献します。



基本姿勢



中核目標



ステークホルダーとの価値共創



お客様・お取引先様

お取引に係る各種法令の遵守による公正な取引を徹底し、「SHIP」理念の下で誠実な事業活動を推進します。また、パートナー精神を忘れず、すべてのお客様・お取引先様と共に、新たな価値を共創します。

コミュニケーションの機会

- 日々の病院運営サポート、営業活動
- ヘルスケア業界の交流会、共同研究
- 医療関係学会、シンポジウム、展示会
- 調達方針説明会 など



地域社会・地方自治体

地方自治体や業界団体との協働によって地域環境の保護・保全、地域の活性化に取り組み、人々がより良く生きることができる「Well-Being」な社会を実現します。

コミュニケーションの機会

- 官民連携事業
- 社会貢献活動
- 地域イベントの実施
- 地域福祉への協力 など



グループ従業員

グループ理念・ミッションを全社員で共有し、ぶれない判断軸を通じて、透明性が高く風通しの良い社風を築きます。また、やりがいを持っていきいきと働ける職場環境の整備を推進し、変革を創出していきます。

コミュニケーションの機会

- グループ理念研修
- 各種人材育成研修
- 部署内での対話
- 目標管理制度 など



株主・投資家

株主・投資家の皆様への適時適切な情報開示に努め、建設的な対話を推進します。当社事業へのご理解と共感を深めていただくと同時に、社外からのご意見を真摯に受け止め事業活動に反映することで、さらなる企業価値の向上に努めます。

コミュニケーションの機会

- 株主総会、決算説明会
- 海外ロードショー、国内カンファレンス
- 個別ミーティング
- インターネットを通じた情報発信
- 個人投資家向けIRイベントへの出席 など

シップヘルスケアグループの重要課題（マテリアリティ）

シップヘルスケアグループは、ヘルスケア分野のトータルプロデュース企業として、中長期的なグループの成長、企業価値の追求、持続可能な社会の実現に向けて取り組むべき重要課題（マテリアリティ）を特定しました。

■ 特定プロセス

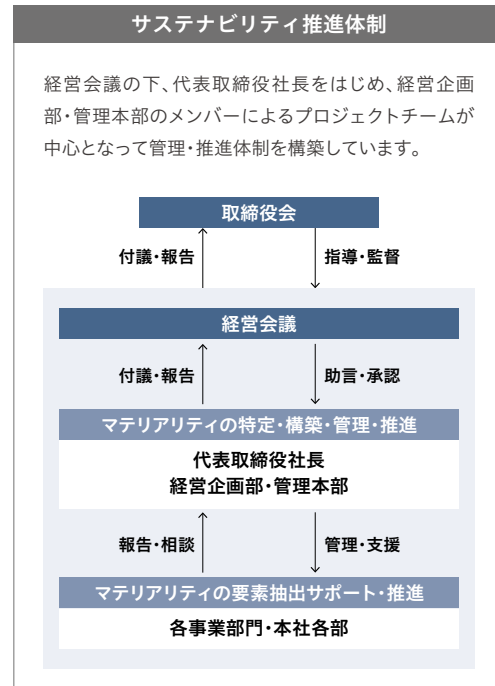
重要課題（マテリアリティ）の特定にあたっては、代表取締役社長の指示・監督の下、経営企画部・管理本部のメンバーによるプロジェクトチームを組成し、当社グループが取り組むべき社会課題を洗い出しました。



事業部門の管理職と課題を共有し、各課題の妥当性や、より優先度の高い項目について精査しました。



経営会議に報告の上、取締役会で議論し、重要課題（マテリアリティ）として特定しました。



■ 重要課題（マテリアリティ）一覧

2026年9月版

	重要課題（マテリアリティ）	代表的な管理指標	関連するSDGs
E 環境	地球環境の未来と共に	廃棄物の削減	・SPD受託件数
		循環型モデルの推進	・リースカーテンリサイクル実績
		資源の有効活用	・フードロスの削減量 ・入浴時の使用湯量
S 社会	医療の未来と共に	地域包括ケアシステムの推進	・プロジェクト件数 ・在宅・施設対応患者数
		医療アクセスの向上	・バングラデシュ「SHIP INTERNATIONAL HOSPITAL」の稼働状況
		持続可能な医療提供体制の構築	・Compass Board導入件数 ・医療DXを通じた医療機関へのソリューション提供実績
		医療機関のBCP・災害対策の強化	・BCP強化の内容
		先端技術の普及・患者様のQOL向上	・大阪重粒子線センターの治療実績
		地域の未来と共に	・官民連携事業の実績 ・市民参加型イベントへの協賛実績・開催実績 ・ボランティア活動状況 ・教育施設などの包括管理業務実績
G ガバナンス	人材の未来と共に	ダイバーシティ＆インクルージョン	・女性管理職比率 ・男性の育児休業取得率
		人材育成	・理念研修の実施実績 ・階層別研修体系による人材育成
G ガバナンス	組織の未来と共に	プライム企業としての中長期的企業価値向上	・コーポレート・ガバナンス報告書による報告 ・内部統制・コンプライアンスの強化

地球環境の未来と共に

シップヘルスケアグループが事業活動を継続していくうえで、気候変動をはじめとする環境問題への対応は経営における重要な課題であると捉えています。私たちは事業活動に伴う環境負荷の低減に取り組むと同時に、環境に配慮したサービスを展開することで、地球環境の未来と共に持続可能な社会の実現を目指してまいります。

注力アクションテーマ

廃棄物の削減

循環型モデルの推進

天然資源の節約



廃棄物の削減

「生命を守る人の環境づくり」のミッションの下、持続可能な医療提供体制を実現するため、メディカルサプライ事業では医療機関における医療材料管理を行うSPDシステムを提供しています。SPDシステムによる適正な在庫管理・供給により、医療現場や物流の効率化に貢献すると同時に、医療廃棄物の削減にも貢献しています。

SPDによる適正な材料管理

医療材料管理・供給のIT化により 医療廃棄物削減へ貢献

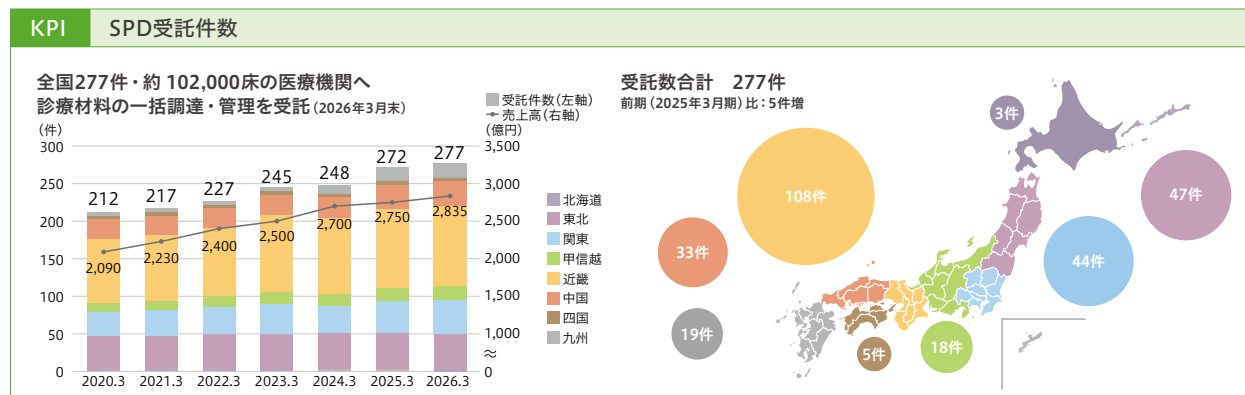
医療機関で使用される大量の医療材料はそれぞれ使用頻度や使用期限が異なり、厳正な管理を必要とします。また、医療機関は常に最良の医療を提供するために余裕を持った在庫を確保することが多く、過剰在庫から出た使用期限切れの医療材料などの廃棄物は、病院経営を圧迫する課題であるとともに、環境にも負荷がかかります。

当社グループが展開するSPDシステムは、ITを活用した管理によって、適正な在庫管理・供給を実現し、廃棄の抑制にも寄与します。さらに、業界で初めてRFIDを活用したSPDを展開し、医療材料に貼付したタグで「いつ・どこで・誰が・誰に・何を・どの治療に使ったのか」のデータを紐づけることで、医療材料のトレーサビリティやサプライチェーンマネジメント(SCM)*の最適化も実現します。適時適切かつ効率的な医療材料供給を通して、環境にも配慮した医療提供体制の構築に貢献しています。

医療従事者の負担軽減・ 安定的な医療提供に貢献

医療従事者の皆様にとって、医療材料管理をはじめとした医療行為以外の多岐にわたる業務は、負担が大きいものです。慢性的な人手不足に対して具体的な改善策が求められる中、良質で持続可能な医療を提供するためには業務効率化が喫緊の課題です。当社グループのSPDサービスでは、医療従事者の皆様に代わりITを駆使した高付加価値な医療材料管理サービスを提供。正確かつ迅速な在庫管理を通じて医療現場を支援し、医療に集中できる環境を作り出しています。また、当社グループの医療材料保管庫は災害時の医療材料供給拠点としても機能し、医療のBCPにも貢献しています。

※SCM:自社内あるいは取引先との間で受発注や在庫、販売、物流などの情報を共有し、原材料や部材、製品の流通全体の最適化を図る管理手法。



循環型モデルの推進

ヘルスケアのトータルプロデュース企業としてさまざまな事業を展開する中、私たちは多くの資源を利用しています。省エネルギーや廃棄物削減を通じて環境負荷の低減に取り組むとともに、使用済み資材や梱包材料などの資源を有効活用し、新たな価値へとつなげる循環型モデルの構築を推進しています。事業活動を通じて、資源循環と社会課題の解決の両立を目指してまいります。

廃棄カーテンを社会価値へつなぐ「カーテンリサイクル活動」

当社グループでは、全国の医療・介護施設向けにカーテンの販売、管理、クリーニングサービスを提供しています。その事業活動の中で多くの使用済みカーテンや端切れ生地が発生しますが、これらは従来、廃棄物として処理されることが一般的でした。そこで私たちは、循環型社会の実現に向けた新たな取り組みとして、廃棄予定のカーテンや製造工程で発生する端切れ生地を再活用する「カーテンリサイクル活動」を推進しています。

本活動では、子ども食堂、障がい者支援団体、動物保護団体、防災活動団体、デザイナー支援団体などへ生地やカーテンを寄贈し、新たな価値を持つ製品や活動へとつなげています。寄贈された生地は、バッグやポーチなどのアップサイクル製品、防災ポンチョ、アート作品、保護動物用の設備や地域コミュニティ活動など、多様な形で活用されています。

2026年3月末時点は116件、廃棄カーテン約1,000枚と130本を寄贈し、約8,433㎡の廃棄ロスを削減しました。今後も資源循環と地域課題の解決を両立する取り組みを広げ、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

「廃材から生まれるさまざまな製品や価値」



VOICE



「捨てる」を当たり前せず、
新たな価値へつなぐ循環の
輪を広げたい

キングラン株式会社 経営企画室
大川 恵理(本プロジェクト担当)

防災カーテンは難燃性のためリサイクルコストが見合わず、以前から検討を重ねながらも実現が難しい状況でした。そこで、「カーテンの廃棄処理にお金をかけて捨てるなら、同じ金額を使ってでもリサイクルをしたほうが良い」という松原社長の考えのもと、なるべくコストをかけず、カーテン生地を必要としてくれる方へ無償で寄贈する取り組みを始めました。譲渡先との関係が一度で終わらないよう、活用用途を提案しながら進めています。

特に印象に残っているのは、寄贈したカーテン生地が大きなキャンパスに見立てられ、障がい者の方の手によってアート作品に生まれ変わったことです。その姿を見たときは、大きな感動を覚えました。今後、施設のカーテンにアート作品が描かれ、施設の「顔」になるなど、さまざまな可能性があると感じています。

今後は、当社グループ全体にアップサイクルの考え方を広げ、廃棄ロスをなくしたい企業と有効活用できる譲渡先をつなぐことで、互いに価値のある循環を生み出していきたいと思っています。

KPI 寄贈件数(2026年3月末)

116件

リサイクル実績：廃棄カーテン約1,000枚と130本
廃棄ロス削減効果：約8,433㎡

天然資源の節約

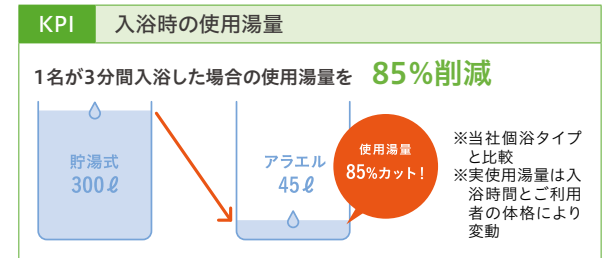
医療・介護環境がめまぐるしく変動する中、入浴サービスのあり方も大きく変化しています。当社グループでは多様化するご施設それぞれに最適な浴室環境をご提案するとともに、天然資源の節約にも貢献しております。

アラエルによる湯量削減の実現

お湯を溜めないシャワー入浴装置のアラエルは、従来の当社個浴タイプの貯湯式浴槽と比べて、85%の湯量削減を実現しています。また、「おまかせ洗身モード」を搭載しており、ボタン一つで全身を洗えます。少ない湯量でしっかりと身体を洗えるのもアラエルの大きな特長で、入浴介助の時間短縮と、介護負担の軽減が期待できます。介助する方にも、介助される方にも快適で衛生的なバスタイムを提供し、発売以来、多くのご施設から好評をいただいています。



シャワー入浴装置 シャワーポッド アラエル 全身シャワーイメージ



衛生的で健康な暮らしには、良質な水資源が欠かせません。一般的に水資源が豊富だと認識されている日本でも、災害や天候不順、気候変動などによって水の供給が不安定になることも考えられます。当社グループは、限られた湯量でも快適に入浴できる設備の提供を通じて、豊かな水資源の保全にも配慮した浴室環境づくりに貢献していきます。

医療の未来と共に

少子高齢化による人手不足と医療費の増大、感染症などさまざまな課題が顕在化し、医療のあり方が見直されています。私たちシップヘルスケアグループは、「生命を守る人の環境づくり」を追求することで医療の未来と共に持続可能な社会の実現へ貢献します。

注力アクションテーマ

地域包括ケアシステムの推進

地域医療の充実

持続可能な医療提供体制の構築

医療機関のBCP・災害対策の強化



地域包括ケアシステムの推進

少子高齢化が急速に進む日本では、医療・介護需要が増加し続ける見通しです。誰もが最良の医療を受けられる環境づくりのため、多様なリソースとノウハウを活かし、地域のより良いヘルスケアシステム構築に貢献します。

地域医療強化のための 再編統合プロジェクトへの協力

当社グループは30年以上にわたり、全国の医療機関の新築・リモデルのコンサルティングから開業後のサポートまで一貫して「生命を守る人の環境づくり」を続けてきました。そこで培ったノウハウを活かして、地域の医療機関・介護施設や薬局、その他暮らしを支えるさまざまなステークホルダーと連携し、地域包括ケアシステムを推進していくことが、私たちの使命だと考えています。これは一つの成功事例で完結するものではなく、地域の特性に寄り添いながら、中長期的な視点で柔軟に対応していくべきものです。当社グループはこれまで、さまざまな地域で医療機関の再編統合プロジェクトに携わってきました。これらの実績を活かし、持続可能かつ強い地域医療を構築するため、引き続きグループの総力を挙げて社会のニーズに応えてまいります。

地域医療強化に向けた長期・大型プロジェクトの事例

岡山県 津山中央病院様

1999年に本館を新築移転して以来、中四国地方初となるがん陽子線治療センター設置や最新鋭の手術室の増築など、20年以上にわたって病院づくりを支援しています。



地域医療の充実

シップヘルスケアグループの総力を結集したサービスとソリューションで、「生命を守る人の環境づくり」に邁進し、誰もが最良の医療を受けられる環境づくりに貢献します。

医療機関と大学医学部の連携により 専門性の高い画像診断を支援

新潟県長岡市の医療法人メディカルビットバレーが運営するエールホームクリニック長岡（2023年10月オープン）は、高度な医療機能を持つ病院と、かかりつけ医として地域に寄り添う個人病院の真ん中に位置し、両者をつなぐ仕組みとして地域医療の活性化に寄与しています。

同クリニックでは、当社グループから導入したCTを地域の医療機関で共同利用しています。撮影された画像は当社グループの大阪先端画像センターを介して、大阪大学医学部放射線医学教室に属する画像診断の専門医の先生方によって読影いただいています。導入費用が高額なためCTを備えている医療機関は多くありませんが、本取り組みにより、長岡地域の患者様も地元に住ながらにして専門性の高い画像診断をお受けいただくことが可能になりました。

メディカルビットバレーの取り組みが、地域医療の現場に広がっていくよう、引き続き当社グループでも支援してまいります。



エールホームクリニック長岡（新潟県）

24 持続可能な医療提供体制の構築

医療の質と効率性を両立した環境の整備は喫緊の課題であり、当社グループが力を尽くすべき取り組みです。地域包括ケアシステムや在宅医療を含む柔軟な医療提供体制の構築、医療従事者の皆様の働き方改革、感染症対策の徹底、社会保障費や医療資源の効率活用など、多岐にわたる課題に注力しています。

物流データ、手術室データから病院経営を支援

当社グループの株式会社エフエスユニマネジメントが開発したCompass Boardは、医療材料物流を限りなく「見える化」するツールです。使用された医療材料、診療科ごとの材料費など、院内の物流データを可視化することができます。導入病院様からは「従来は報告を受けてもどこに課題があり、どのように改善すれば良いのかを把握することが難しい状態であったが、病院の担当者がデータに直接アクセス可能なため、部署や物品別などで消費や在庫状況の集計、分析ができるようになった」とのお声をいただくようになりました。

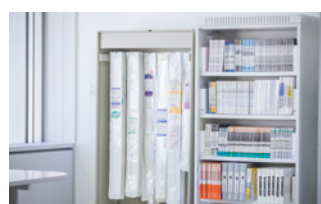
2026年3月末時点の導入件数は88件であり、毎年着実に導入件数を増やし続けています。

今後は、他病院様との比較ができる機能を組み込んでいきます。少子高齢化に伴う国民医療費の増大により、病院経営は今、非常に厳しい状況に置かれています。経費の中で多くの割合を占める材料費を適正にコントロールすることは、病院経営において重要課題です。Compass Boardの普及により医療機関の経営課題解決に寄与してまいります。

また、手術室やカテーテル室など、それぞれの特徴に合わせた最

適な収納環境を実現するため、RFIDタグによる専用キャビネットや医療情報システムとリアルタイムに連携したキャビネット管理システムを導入。各種収納物品をより正確に、かつ適正に管理しています。キャビネットにはRFIDセンサーを内蔵し、キャビネットから物品を取り出すだけで出庫を捉え、使途不明品の把握、棚卸などの業務負担を軽減しています。

さらに、当社グループでは、安全・快適で効率的な手術室を目指して、手術室の見えていない課題の「見える化」を支援しています。センサーやIoTデバイスを駆使することで、手術室に関する設備・環境・オペレーションのデータ収集・分析を行い、改善提案につなげます。情報の可視化だけでなく、アラート設定や空調制御も可能です。



す。今後もDXを切り口にしたソリューションで、病院の経営支援、業務支援を行い、持続可能な医療提供体制の構築に寄与してまいります。



Compass Board操作画面



医療機関のBCP・災害対策の強化

医療が最も必要とされる時、人々の生命を守る現場をいかに支え、医療を止めない環境をつくることができるか。「生命を守る人の環境づくり」を実践する当社グループは、医療機関のBCP構築を重要な使命と認識しています。

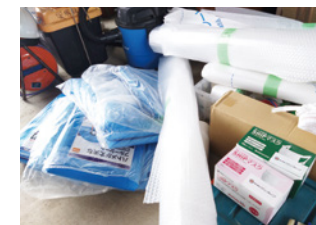
能登半島地震 災害救援活動 事例1

医療ガス設備国内トップシェアを誇る当社グループの株式会社セントラルユニでは、非常時でも病院の医療体制を守るため、これまでの病院づくりプロジェクトの中でメディカルサプライシステムに対するさまざまな施策を提案してきました。2024年能登半島地震では、現地代理店と協力し被災状況の確認・病院運用継続支援を迅速に行いました。地震の規模が大きく多数の病院で建物の損傷や不同沈下による被害がありましたが、医療ガス配管の銅管で施工されている部分については、配管の断裂はあまり確認されませんでした。供給システムの一部では、運転時に水の供給を必要とする水封式吸引ポンプが断水による影響を受けましたが、手動で水を補給する措置により運用を継続しました。引き続き当社グループでは、断水の影響を受けないオイル式吸引ポンプの提案など、災害時でも医療提供体制が継続できるよう事業を推進してまいります。



能登半島地震 災害救援活動 事例2

当社グループの株式会社サンライフでは、特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会に対し、富山県氷見市における災害救援活動への支援として、第一種衛生管理者の資格を持つ社員派遣に加え、施設内での感染予防対策としてグループPB商品(例SHIPサージカルマスク)を提供しました。



地域の未来と共に

シップヘルスケアグループは、創業以来、ボランティア清掃活動や公共設備の維持管理など地域活動に力を入れてきました。企業市民として、地域への感謝を忘れず地域創生に資する取り組みを続けてまいります。

注力アクションテーマ

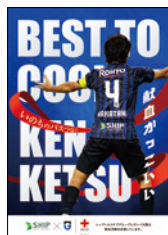
地域社会との共生、市民の健康増進



地域社会との共生、市民の健康増進

献血啓発活動へ協力

当社グループは、大阪府赤十字血液センター及びガンパ大阪と連携し、「いのちのパスプロジェクト」に参画しています。若年層を中心に献血者数が減少する中、ポスター制作や啓発活動を通じて献血の重要性を伝え、地域における「いのちをつなぐ活動」を支援しています。病気やけがと向き合う方々に必要な血液を安定的に届けるため、今後もパートナー企業・団体と協力しながら献血への理解と参加の輪を広げてまいります。



社内献血風景

吹田市立学校・保育施設などの包括管理業務受託



当社グループは、吹田市立の小・中学校や保育施設など計84施設の包括管理業務を担っています。施設管理や給食、警備などで培ったノウハウを活かし、安心・安全な教育環境の維持に貢献しています。子どもたちが健やかに学び、成長できる環境づくりを支援するとともに、地域行政と連携しながら公共サービスの質の向上に取り組んでいます。

当社グループは、吹田市立の小・中学校や保育施設など計84施設の包括管理業務を担っています。施設管理や給食、警備などで培ったノウハウを活かし、安心・安全な教育環境の維持に貢献しています。子どもたちが健やかに学び、成長できる環境づくりを支援するとともに、地域行政と連携しながら公共サービスの質の向上に取り組んでいます。

パラスポーツの支援

当社グループの酒井医療株式会社では、日本ボッチャ協会をはじめ、さまざまなパラスポーツ団体のオフィシャルサプライヤーとして選手のコンディショニングやトレーニングに使用する機器の提供、動作解析の計測サポートなどの支援を行っています。また、社員によるパラスポーツの体験や応援、ボランティア参加を通じて共生社会の実現を目指していきます。



地域の魅力向上とWell-Beingの創出

当社グループは、ミッションである「生命を守る人の環境づくり」のもと、医療・介護分野で培ってきた知見を活かし、「生命を守る」に加えて「自然を守る」「地域を育む」という視点からWell-Being推進事業を展開しています。その一環として、公園や公共空間の管理運営を通じて、地域社会への貢献を進めています。

吹田市では、2022年から江坂公園・江坂図書館及び桃山公園の魅力向上事業を推進しています。公園・図書館・カフェを一体的に活用し、地域イベント「Well Being ESAKA」の開催や清掃活動・緑化活動などを通じて、多世代が交流できるコミュニティの形成と地域のにぎわい創出に取り組んでいます。また、健康づくりや交流促進を目的とした「健都リレーマラソン」への協賛や、子どもたちに笑顔と希望を届けるチャリティイベント「サンタパレード大阪」への支援など、地域と連携した活動を通じて、Well-Beingなまちづくりに貢献しています。

また、2026年7月より、日本最古の公立植物園である京都府立植物園の施設管理・運營業務を開始しました。当社グループが代表企業を務める共同事業体において、来園者サービスの向上や地域との連携、イベント運営などを担い、植物の保全や学習支援、生物多様性への理解促進を通じて、自然と人、人と地域をつなぐ新たな価値創造に取り組んでいます。

加えて、中の島公園及び中の島スポーツグラウンドの指定管理事業にも参画し、2026年9月にリニューアルオープンした中の島公園において、新たなにぎわいの創出や市民の交流促進に取り組んでいます。今後も公園や公共施設を、人々の健康、交流、学びを支えるWell-Beingの拠点として活用し、持続可能な地域社会の実現に貢献してまいります。



京都府立植物園



人材の未来と共に

企業の成長を支えるものは、そこで働く「人」にほかなりません。当社グループでは、互いをパートナーとして尊重し、切磋琢磨する「自律的な人材」を組織として育みます。多様な価値観や個性を活かし、誰もが能力を発揮できる職場環境を整え、同時に、「SHIP」理念を核とした人材育成を通じて、社員一人ひとりの成長と挑戦を支援していきます。

注力アクションテーマ

ダイバーシティ&インクルージョン

人材育成



ダイバーシティ&インクルージョン

企業の持続的成長を実現するためには、性別や年齢、経験、働き方などの違いを尊重し、多様な人材がそれぞれの能力を発揮できる環境を整えることが重要です。当社グループでは、「SHIP」理念のもと、誰もがライフステージにかかわらず働き続け、成長や挑戦の機会を得られる職場づくりを進めています。

女性活躍の推進

当社グループでは、性別にかかわらず、一人ひとりが能力や経験を活かし、さまざまな職位で活躍できる環境づくりを進めています。女性従業員が多く活躍する当社グループにおいて、さらなる活躍機会の拡大に向け、ライフステージに応じた就業継続支

援とともに、管理職や次世代リーダーへの登用を推進しています。今後も、能力と意欲のある社員が継続的に成長し、組織の意思決定に参画できる環境の整備に取り組んでいきます。

KPI	女性管理職比率（正社員）		
	2025年3月末	2026年3月末	2031年3月末(目標)
	13.9%	15.0%	20.0%

※女性管理職比率は、国内グループ会社の正社員の管理職総数に占める女性管理職数の割合。

働きやすい職場づくり

当社グループでは、働く社員一人ひとりを守ることを第一に、「安全で安心して働ける職場環境」の実現を目指しています。2021年度から、社員の子育てに伴う経済的な負担を軽減するため、子ども一人につき、出生時や入学時に一時金を支給する子育て支援制度を導入しています。

また、社員が仕事と家庭生活を両立し、継続して活躍できるよう、育児休業を取得しやすく、互いに支え合える職場風土の醸成に取り組んでいます。女性社員の就業継続を支援するとともに、男性社員の育児休業取得を推進し、性別にかかわらず子育てと仕事を両立できる職場づくりを進めています。

KPI	男性の育児休業取得率（正社員）		
	2025年3月末	2026年3月末	2031年3月末(目標)
	38.1%	57.6%	65.0%

VOICE

ライフステージを問わず 管理職に挑戦できる仕組みを

シップヘルスケアファーマシー株式会社
みどり薬局 千里レジデンス店 薬局長 石川 志保

薬局長・管理薬剤師として、医薬品管理や医療機関連携、店舗運営、患者様への服薬指導に携わっています。一人ひとりに寄り添う姿勢は、患者様への対応にとどまらず、スタッフが生き生きと働ける職場づくりにも欠かせないと考えています。当社には、産休・育休を経て復職し、管理職として活躍する社員もいます。私自身も、希望を上司に伝えたことで新たな挑戦の機会を得ました。今後は、誰もが思いを気軽に語り、ライフステージの変化にかかわらず一歩を踏み出せる職場づくりに取り組んでみます。



人材育成

「SHIP」理念を核とした人材育成を継続しています。理念浸透を通じ、使命と価値観を共有するとともに、階層や役割に応じた知識・スキルの習得を支援し、変化する事業環境に対応できる人材と組織の育成を目指しています。

理念研修の実施

「SHIP」理念の浸透と高い志の共有に向け、グループのあゆみを学ぶ理念研修を2021年度に更新し、全グループで実施しています。新入社員・キャリア採用者は入社時に受講するほか、グループ各社で全社員向け・階層別の独自研修を設け、2,800名以上が受講しています。

KPI	理念研修の実施実績	
	2025年3月末	2026年3月末
	28回/623名	23回/540名

階層別研修体系による人材育成

「SHIP」理念を核とした人材育成を基盤に、若手・中堅・管理職など、社員の役割や成長段階に応じた階層別研修体系を整備しています。マネジメント、リーダーシップ、コンプライアンスなどの階層別教育と、営業、財務・経理、論理的思考などの専門教育を組み合わせ、社員一人ひとりのスキルアップと自律的な成長を支援していきます。

VOICE

女性ならではの新しい視点で、 企業の成長と魅力向上に貢献

株式会社エフエスユニマネジメント
管理本部 人材開発部 部長 嶋 博子

採用、育成、評価、労務管理など、人材業務全般に携わっています。女性をはじめ多様な人材の活躍を推進するため、2020年度より「事業所責任者育成塾」を開始し、41名の責任者を輩出しました。うち10名が女性で、当社単体の女性管理職比率は、2020年度の8.5%から2026年度には22.4%に向上しています。当社初の女性部長として、多様な人材が活躍できる環境づくりを進め、企業の成長と魅力向上に貢献してまいります。



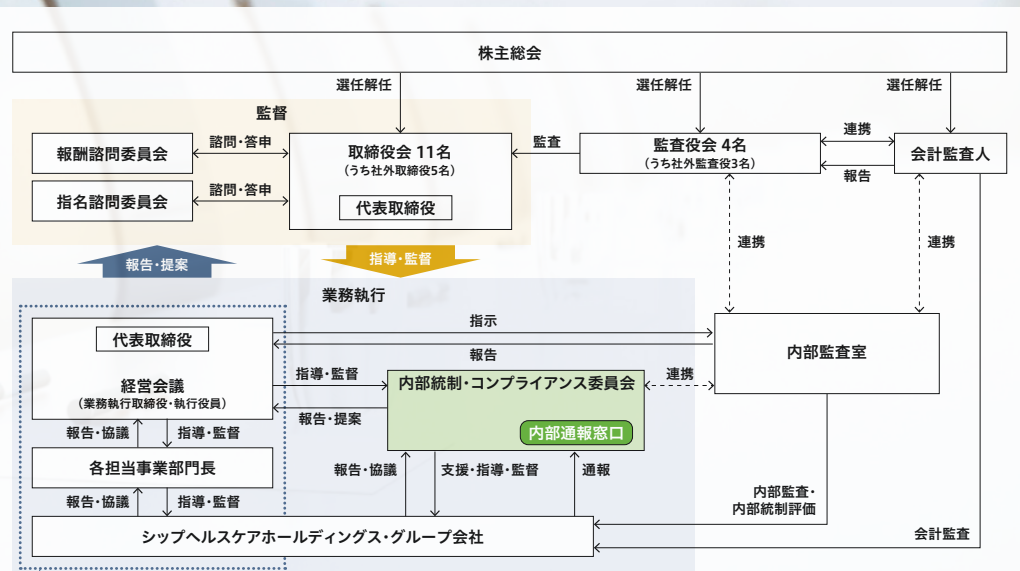
組織の未来と共に

シップヘルスケアグループがこの先も社会の持続可能性に貢献する存在であり続けるためには、グループ経営の要となるコーポレート・ガバナンスの強化が重要な課題であると考えています。「SHIP」理念

に基づき、高い倫理観と責任感をもって行動し、さらなる企業成長を通じて企業価値の向上を図ることで、組織の未来と共に持続可能な社会を実現してまいります。

コーポレート・ガバナンス体制 (2026年6月30日時点)

社外取締役が取締役の1/3以上を構成する取締役会の監督の下、代表取締役社長を委員長とする「内部統制・コンプライアンス委員会」を経営会議の直下に設置し、グループ全体のガバナンス向上を推進しています。



サステナビリティ推進体制 ▶▶ P.12

プライム企業としての 中長期的企業価値向上

コーポレート・ガバナンスコードへの対応

持続的な成長を通じた中長期的な企業価値向上の実現に向け、コーポレート・ガバナンスコードに照らして定期的な見直し・強化を図っています。コンプライアンス及びリスクマネジメント体制の整備に加え、社内外の多様なステークホルダーとの建設的な対話、人権の尊重など、当社グループを取り巻く事業環境の要請に応え、社会的責任を果たすべく取り組んでいます。

グループ理念である「SHIP」は、『誠実な心と「情」の心を大切に、真摯な革新者としての気概をもち、企業を取り巻くステークホルダーと共に社会に貢献すること』を意味しており、高い倫理観と責任感を持って企業価値向上に努める企業風土の拠り所となっています。経営陣・グループ全社員が「SHIP」理念と「企業行動基準」に則った行動を実践し、その取り組み姿勢に対して評価する仕組みを導入することで、グループガバナンスのさらなる向上を図っています。

内部統制・コンプライアンスの強化

「生命を守る人の環境づくり」というグループミッションのもと、生命に関わる社会的責務を担う企業集団として、内部統制及びコンプライアンスの強化は最も重要な経営課題であると認識しています。

内部統制・コンプライアンス委員会では、グループ各社の内部統制・コンプライアンスに係る実態把握に加え、ハラスメントの防止や公正な取引の推進、各種業法の遵守などを徹底しています。グループ共通の課題を「企業行動基準」に反映するなど、コンプライアンス意識の醸成に取り組むことで、レジリエントな組織づくりを推進しています。

役員一覧

※2026年6月25日現在



スキルマトリクス

番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15
役職	代表取締役会長	代表取締役社長	代表取締役副会長 TPP事業部門長	取締役副社長 秘書室長	常務取締役 営業企画本部 本部長	取締役 管理本部長	社外取締役	社外取締役	社外取締役	社外取締役	社外取締役	社外監査役	常勤監査役	社外監査役	社外監査役
氏名	古川 國久	大橋 太	小川 宏隆	横山 裕司	海野 真史	安田 芳郎	佐野 精一郎	今別府 敏雄	伊藤 文代	西尾 信也	内山 由紀	水島 藤一郎	戸田 成重	南 浩一	佐野 信行
当社が特に期待する分野 (最大3つ)	企業経営	●	●				●			●		●		●	●
	業界知見・医療政策	●	●	●	●			●	●				●		
	営業・マーケティング	●			●								●		
	財務・会計			●	●	●				●		●		●	●
	IT・テクノロジー		●			●									
	人事・人材開発				●		●		●		●				
	法務・リスク管理・コンプライアンス			●		●		●		●	●	●	●	●	●

社外取締役メッセージ



社外取締役

佐野 精一郎

2007年6月 三洋電機株式会社代表取締役社長、2011年4月 パナソニック株式会社（現 パナソニックホールディングス株式会社）専務役員、2016年6月 同社顧問、2017年6月 当社取締役（現任）

当社の取締役会は、社外取締役が発言しやすい環境にあり、各議案について活発かつ詳細な議論がなされています。一方、物価高などにより事業環境が厳しさを増す中、収益の確保とガバナンス・コンプライアンスの両立、企業価値のさらなる向上が課題です。こうした中、今後は本社による子会社の収支・コンプライアンス両面のチェック機能強化と資産の有効活用を進めるとともに、「連結売上高1兆円」を目指す企業集団をけん引する経営幹部の育成、将来を担う若手優秀人材の確保が重要です。継続的な成長に向け、これらの課題に対する前向きな議論と着実な実行を今後も期待しています。



社外取締役

今別府 敏雄

2013年7月 厚生労働省医薬食品局長、2014年7月 厚生労働省政策統括官、2019年6月 当社取締役（現任）

当社は医療関連のビジネスを軸に成長してきましたが、今後はその領域を環境分野にも広げつつあり、多様性を活かした事業展開に強みがあると考えます。取締役会では、複数の女性を含む社外役員が過半数となり、より多岐にわたる視点から活発な議論が行われています。いまは、進取の気性に富む創業メンバーから次世代へ、また拡大路線から内部統制を強化し組織の体力を高める方向へと移行する極めて重要な時期です。難局を経験することが人の成長につながると考えており、将来性を踏まえた適材適所や異業種を含めた人材交流もまた、今後の持続的な成長に向けて重要だと考えています。



社外取締役

伊藤 文代

2008年4月 厚生労働省医政局国立病院課看護専門官、2016年4月 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター看護部長、2019年6月 当社取締役（現任）、2025年9月 洛和会本部看護部門部長（現任）

当社の強みは、「生命を守る人の環境づくり」という基本姿勢が顧客価値に合致し、職員にも浸透していることだと考えます。取締役会では、会長・社長の強いリーダーシップと役員の幅広い見識・専門性により、活発で自由な議論が行われています。経営の健全性と透明性を確保し、現場のリスクマネジメントや、商品・サービスのイノベーションを推進する組織能力を高めることが重要です。また、事業ポートフォリオの中で、成長を促す事業と統合・縮小を進める事業を見極め、判断を長引かせず進める必要があります。多様な人材が活躍できる組織風土づくりと次世代リーダーの育成を期待しています。



社外取締役

西尾 信也

2016年4月 大和証券株式会社代表取締役副社長、2018年4月 株式会社大和インベストメント・マネジメント代表取締役社長、2021年4月 大和企業投資株式会社常勤顧問、同年6月 当社取締役（現任）

TPPを軸に、その他のセグメントと特徴ある52社のグループ企業群が連携する力が、当社の強みだと考えます。今後は、グループ各社へのガバナンス強化とビジョン共有による求心力の向上を両立させることが重要です。SHIP VISION 2030の実現に向けては、Well-Beingに沿った成長戦略の核となるM&Aの進捗やポートフォリオの見直しを、社外取締役として随時確認する必要があります。目先の利益追求に偏らず、将来収益への貢献を意識して業務に取り組めるよう、幹部社員への指導や、将来の会社のあるべき姿を考える研修など、人材育成の強化も必要だと考えます。



社外取締役

内山 由紀

1997年4月 大阪弁護士会登録、2018年6月 TMI総合法律事務所 大阪オフィス カウンセル就任（現任）、2023年4月 公認不正検査士（CFE）資格認定、2026年6月 当社取締役（現任）

本年より取締役に就任し、理解を深めている段階ですが、医療・介護・福祉を支え、現場の声に耳を傾けサービスを積み重ねてきた点に強みを感じています。取締役会では、率直に意見を交わせる雰囲気を感じています。持続的な成長には、コンプライアンス、リスク管理、内部統制を有機的に機能させるとともに、安心して挑戦できる組織づくりが重要です。弁護士としての視点を活かし、リスクを早めに見える化し、健全な挑戦を支えるガバナンスに貢献したいと考えています。「SHIP」に込められた姿勢を共有し、社会課題の解決に向け、自分事として主体的に挑戦し続けることを期待しています。

会長メッセージ

人々がより良く生きるために、 これからも至誠を貫く

「生命」の大切さに思いを寄せることー シップヘルスケアグループの経営において、私が最も大切にしていることが、ここにあります。幼い頃に両親を亡くしたこともあり、「生命」に対する思いは人一倍強いのかもしれません。私たちはこれまで、かけがえのない「生命」を守るための仕事と向き合ってきました。それは、これからも変わることはありません。

「SHIP」という理念は創業当時、どのような会社にしたいか、仲間と夜な夜な議論して出てきた言葉です。Sincere（誠実な心）、Humanity（「情」の心）、Innovation（革新者の気概）、PartnerSHIP（パートナーシップ精神）の頭文字であり、荒波にも怯むことなく漕ぎ出していく船（SHIP）の意味にも通じます。幼い頃、親から学んだ山田方谷の「至誠惻怛」の精神もまた私の信念であり、この理念の底流に流れています。

私はこれまで、迷いのある時は、常にこの「信念に基づく理念」に立ち返り、企業としての判断に役立ててきました。もちろん、私一人ですることは限られます。「仲間」とともに難局を乗り切ることの大切さも、身に沁みて感じています。

60年間、私は日本の医療業界に身を置き、その動きをつぶさに捉えてきました。このように長期にわたり、自分の目

で医療の移り変わりを見てきたという人間は、そう多くはありません。この振り返りができることは、とても幸せです。医療を取り巻く環境は60年で大きく変わりました。技術は大きく進化した一方で、多くの過ちもあったと思います。日本では少子高齢化が加速し、それはこれからも続いています。次の世代をより良くするために、子どもたちには「正しく生きる」ことの大切さをしっかり教えていく必要があります。そのためには、企業、行政、政治、そして社会も変わらなければなりません。

社会をより良くするために、当社グループはこれからも社会に存在し続ける必要があります。そのために、社員と心を一つにすることが大切です。時には厳しく接することもあります。社員には常に愛情をもって接しているつもりです。最近では、ガバナンス、コンプライアンス、ポートフォリオを踏まえることの大切さを説いて回っています。規則を重んじ、健全な判断のもと、事業を通じて私たちができることをしっかり自覚することが大切です。

何よりも大切な「生命を守る」ために、私はこれからも、できる限りのことをします。医療はもちろん、健康な暮らしに欠かせない公園の整備など、人々がより良く生きる（Well-Being）ために、これからも至誠を貫く考えです。



代表取締役会長

吉川 國久

企業情報

会社概要

名称	シップヘルスケアホールディングス株式会社
本社所在地	〒565-0853 大阪府吹田市春日3-20-8
代表取締役会長	古川 國久
代表取締役社長	大橋 太

設立	1992年8月
資本金	155億5,301万円
従業員数	連結 7,819名（正社員） 16,080名（従業員）（2026年3月31日現在）
売上高	連結7,181億円（2026年3月期）

シップヘルスケアホールディングス株式会社

〒565-0853 大阪府吹田市春日 3-20-8
TEL 06-6369-0130（代表） <https://shiphd.co.jp/>
[2026.9]

